



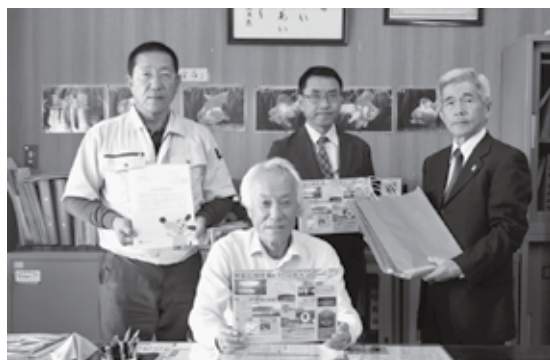
初めての笛に苦戦しました

10/29 伝統文化を継承したい
清源寺天満宮神楽保存会

清源寺天満宮神楽保存会（田上正二会長）は、腹赤小学校を訪問し、町の指定無形文化財である清源寺神楽を披露しました。

この日は、3年生33人を対象に紙芝居などを交えて、神楽の由来や文化を学びました。また、デモンストレーションとして、同校5年生の福田拓生さんと廣岡航汰くん、4年生の山城匠くん、中村紗夏さんが神楽を披露しました。

その後、舞、太鼓、笛の体験を行った児童たちは「自分も習ってみたい」「笛の音を出すのが難しかった」などと楽しそうな笑顔を見せました。



下敷きを贈呈した市原地区長（後列左）

10/31 租税教育の一環に活用してほしい
(公社)玉名法人会長洲地区が下敷きを贈呈

公益社団法人玉名法人会長洲地区（市原一廣地区長）は、町内各中学校へ租税教育用の下敷きを贈呈しました。

これは、税を考える週間の中で、租税教育の充実と地域貢献の一環として全国の各法人会が昭和55年から取り組んでいるものです。

この日は、市原地区長と（公社）玉名法人会高森事務局長が訪れ、税について分かりやすく説明された下敷きを戸越教育長に手渡しました。

なお、贈呈された下敷きは町内中学校の3年生に配布されました。



金魚すくいを楽しむ子どもたち

10/27 ながす金魚をPR！
佐賀ものづくりフェア

町は、佐賀県武雄市で開催された「佐賀ものづくりフェア」に参加し、参加者を対象に金魚すくいをを行い、ながす金魚をPRしました。

これは、全国ものづくり塾総局、佐賀ものづくり塾や熊本大学教育学部が主催したもので、会場は親子連れなど多くの来場者で賑わい、金魚すくいを楽しむ姿が見られました。



小さい子どもも一生懸命ものづくり



金魚を入れる木のペットボトルホルダーづくり



力を合わせて収穫しました

10/29 ことしの出来はどうか？
清里小が稲刈り体験

清里小学校（大川隆嗣校長）は、6月に植えたもち米の稲刈りを行いました。

同校での米作り体験はことしで25年目。この日は、全生徒106人と保護者や地域の皆さんなどが参加。約600平方メートルの広さにたわわに実ったもち米の稲穂を一つ一つ鎌で丁寧に刈り取っていく児童たちの様子が見られました。

収穫したもち米は、11月16日に同校で開催された「みのりの里まつり」で地域の皆さんに振る舞われました。



区内を巡った子どもみこし

10/6 区民の交流の場を
松原区が秋祭りを開催しました

松原区（松浦秋則区長）は、秋祭りを開催しました。

この日は、朝から子どもみこしが区内を巡って地域の安全を祈願し、夜は区の介護予防拠点施設「ふれあい松原」でヨーヨーすくい、バーベキュー、抽選会などを行いました。

会場には、子どもから高齢者まで幅広い年代の区民が約50人集まり、大いに賑わいました。

松浦区長は、「暑い夏が続いたので、ことしは秋祭りにしました。ふれあい松原に多くの人が集まって大変うれしく思います」と笑顔で話しました。



講演を行った豊里さん

10/26 もし活のススめ！～親あるうちに考えよう～
終活を楽しく考える講演会が開催されました

町とNPO法人スローすてっぷ（松岡友美代表）は町中央公民館で講演会を開催しました。

この講演会は、「親なきあとではなく、親あるうちに考える」をテーマに、誰も訪れる人生の終わりまでの準備活動（終活）について明るく楽しく考えるために行われたものです。

この日は、町内外から約70人が参加し、ハッピーホープ代表の豊里幸さんを講師に招いて、まだまだ元気な世代の人にも、今からできる備えがあることや決して先延ばしにせず、今考え準備することの大切さについてなどの話がありました。

また、講演会の前には、チームすまいるのダンスが披露され、熊本県人権啓発キャラクター「コッコロ」、ふれきんちゃんも応援にかけつけ、講演に花を添えました。



子どもたちの楽しそうな声が響いた玉入れ

9/29 区民の団結に繋げたい
第21回古城区レクリエーション大会

古城区（橘馨区長）は、古城公園グラウンドで、古城区レクリエーション大会を開催しました。

これは、区民の親睦や交流を図るために開催されたもので、ことしで21回目。

ことしは約250人の区民が参加し、借り物競走や綱引きなどを行い、子どもから大人まで笑顔溢れる大会となりました。

橘区長は、「普段、なかなか会わない人と交流をすることで地域の団結に繋がればと思います」と話しました。



優勝した下東GG愛好会の皆さん

10/20 長洲校区老人クラブ連合会
親睦グラウンドゴルフ大会

長洲校区老人クラブ連合会（高松一馬会長）は、長洲小学校運動場で親睦グラウンドゴルフ大会を開催しました。

これは、大会を通じて地域での助け合いを強く持ち、日頃顔を会わせない人と競技することで、交流を深めることを目的に開催しています。

この日は、8チーム47人が参加し、和気あいあいと和やかな雰囲気の中でグラウンドゴルフを楽しみました。

なお、結果は以下のとおりです。

優勝 下東GG愛好会
2位 若葉会
3位 黄葉会



熱心にさばき方を勉強する参加者たち

11/15 プロの技を学ぶ お魚さばき実践講座を開催しました

11月のながすクッキングで、ことしで4回目となるお魚さばき実践講座を行いました。

今回は、磯野鮮魚店の磯野秀子さん（西荒神）を講師に招き、サバやアジのさばき方を学びました。プロの技を学んだ参加者は、アジの刺身やサバの香味揚げ、みそ煮を作り、頭などは汁物にして余すところなくいただきました。

参加者は「これまで自己流でさばいていたが、本職のさばき方を見て勉強になった」と話しました。



食の大切さを説明する増岡さん

11/23 自然の恵みに感謝 畑の学校収穫祭

ながす地域活動（増岡美知子会長）は、町地域福祉センターで畑の学校収穫祭を開催しました。

この日は、大人から子どもまで34人が参加。畑の学校で収穫した野菜を使った料理や、町食生活改善協議会の指導の下、いきなり団子を作り、調理後は参加者でおいしくいただきました。



子どもたちも一生懸命



全部で13種類の料理を堪能しました



活発な意見交換が行われました

11/14 町の水産振興と干潟の再生を願って 水産振興及び干潟再生協議会を開催

町は、水産振興及び干潟再生協議会を開催しました。

これは、水産振興に向けた取り組みや干潟再生に向けての情報共有および相互の連携の強化を図るため、平成30年8月に設置され熊本県内外の20団体で構成されているものです。

この日は、水産庁栽培養殖課の藤田仁司課長による講演をはじめ、町・熊本北部漁業協同組合・大学との産官学連携で取り組んでいる調査・研究の報告が行われ、参加者の間で活発な意見交換が交わされました。



水産振興に関する活発な意見交換が行われました

11/19 水産振興の発展を目指して 大分県宇佐市と水産振興に関する意見交換会

町は、水産振興に関する包括連携協定を結んでいる大分県宇佐市と意見交換会を開催しました。

この日は、熊本北部漁業協同組合の上田浩次代表理事組合長と大分県漁業協同組合の久保須恵人宇佐地区漁業運営委員長をはじめ、関係者が一堂に会し、干潟状況の改善やあさり資源の回復についての活動報告のあと、活発な意見交換が行われました。



多くの来場者で賑わいました

11/2・3 ながす金魚をPR 第24回くまもと物産フェア

グランメッセ熊本で、第24回くまもと物産フェアが開催され、町商工会として金魚すくいや金魚の販売など、ながす金魚のPRを行いました。

このイベントは、県内各地の物産品が一堂に集まるもので、町商工会からは町養魚組合を中心に毎年参加しています。

参加したアクアランド徳永の徳永久志さんは、「毎年足を運んでくれる顔なじみのお客さんも増えてきました。ながす金魚の認知度も上がってきたように感じます」と手ごたえを話しました。



技能士に教えてもらいながらミニ門松を作りました

11/9 技能士の一流の技術を堪能 「技能フェア in 長洲」開催

県と県職業能力開発協会と（一社）熊本県技能士会連合会は、金魚の館で「技能フェア in 長洲」を開催しました。

これは、ものづくりの素晴らしさや魅力、技能士の卓越した技能を多くの県民に知ってもらうことを目的に開催されているものです。

当日は、お菓子づくり、木工教室、ペン立てへの塗装体験、光るどろだんごを作る左官体験、瓦屋根上がり体験など普段経験することができない専門的なスキルを楽しめるワークショップを通して体験し、たくさんの方が楽しんでいました。



遊具を寄贈した宮本会長（後列左から2人目）

11/1 子どもたちの健全な育成を願って 町身体障害者福祉協議会が『遊具』を贈呈

町身体障害者福祉協議会（宮本義直会長）は、ウォーカー付き知育遊具などを町社会福祉協議会に贈呈しました。

これは、10月25日に開催された「幼児健全育成チャリティー歌謡フェスティバル」の益金から、毎年遊具などを贈呈しているもので、ことしで13回目。

寄贈した宮本会長は、「予想を超える多くの人が参加していただいたおかげです。今後も子どもたちが喜ぶような遊具を贈り続けていきたいです」と話しました。

寄贈された遊具は、町子育て支援センターで利用できます。



ふれきんちゃんも参戦!?

11/9 長洲町ば元気にするバイ!! 九州プロレスが長洲町に元気を!

NPO法人九州プロレス（筑前りょう太理事長）は、腹栄中学校体育館で大会を開催しました。

同団体は、プロレスを通して元気を届け、地域に恩返しをしたいとの思いで活動しています。

この日は、町内外から約450人もの来場があり、間近で見る迫力満点の試合に会場からは割れんばかりの歓声が上がりました。



特別参戦した熊本出身のさとうゆうき選手



迫力満点の重量級戦